

学校の教育目標 **かしこく 心豊かで たくましい実践力のある子の育成**

・昨年度までの成果と課題

- ・読書を進んで行い、授業での学習活動において、読書した内容と関わらせて考えを発表することができる。
- ・大きな声で発表したり、友だちの発表を一生懸命に聞こうとしたりする児童が多い。
- ・並行読書の活用により、語彙力・表現力が伸び、詳しく話したり聞きまとめたりすることができる。
- ・整理したり、組み立てたりして論理的に話したり、書いたりする力が弱い
- ・理解力・表現力において個人差が見られる

・UDの視点からの成果と課題

- ・IT 機器による具体的な提示等、興味・関心を持たせる工夫が定着している。
- ・UD の 10 観点を意識した授業を仕組むことで、授業における具体的な手立てが打てるようになってきた。
- ・気になる児童に対する確実な子供理解と、適切な支援の方法を深めていく必要がある。
- ・子供たちが自分の考えを豊かに伝え合うための協同学習の仕組み方を考えていく必要がある。

願う子どもの姿

- ・言葉に興味をもち、語彙を増やして、学んだ言葉を使って自分の思いを分かりやすく、生き生きと伝え合うことができる子。
- ・課題意識をもち、読書活動を流用しながら主体的に仲間と関わり表現できる子。
- ・個々の違いを尊重し、支え合える子。

研究主題

確かな言葉で、自らの考えを豊かに伝え合う子の育成

～どの子も達成感もてるUDの授業づくりと、読書を活用した学習指導～

研究仮説

適切な実態分析のもと、具体的な支援を明らかにしたUDの授業づくりを基盤として、目的に合った読書の活用や、協同学習を位置づければ、どの子も確かな言葉を用いて、自分の考えを豊かに伝え合う力を育てることができるであろう。

研究内容 1

☆主体的な学びに発展させる、読書を活用した単元指導計画の工夫

- ① 学習活動の必然性を感じることのできる単元導入の工夫
- ② つけたい力と児童の実態を踏まえた言語活動の位置づけ
- ③ 単元の特性に応じた並行読書の活用

研究内容 2

☆UDの授業づくりにおける協同学習の在り方

- ① 仲間と支え合い高まり合える課題設定
- ② 主体的に話し合うための工夫の明確化

研究内容 3

☆自己評価の3観点に基づいた評価の在り方

- ① 自分の考えをもつ
 - ② 根拠をもって考えを伝え合う
 - ③ 考えを豊かに書きまとめる
- 自己評価
「読み切る・話し切る・書き切る」
「支え切る」

学びを支える読書

楽しむ読書
(読書量を増やす活動)

完 読

活用する読書
(読書の質を高める活動)

確かな言葉を育むための、読書活動